

平成 23 年度事業計画書

学校法人 享栄学園

はじめに

学校法人享栄学園は、平成 25 年に創立 100 周年を迎えようとしています。私塾から始まり戦争を経験し、学生の急減期や経済不況など幾多の困難な時を経て 98 年の歴史を築いてきました。

この間、建学の精神に基づく教育を営々となし、多くの教職員の努力や支えを下に、社会で信頼され、社会で役立つ数多くの卒業生を輩出してきました。

平成 5 年から始まった 18 歳人口の減少、平成 20 年のリーマンショックによる未曾有の経済不況など、私学を取り巻く環境は年々厳しい状況になっています。

創立 100 年を迎えるために、又、本学園が未来永劫に存続していくためにも、経営改革は、時には痛みを伴い苦しく耐えねばならぬことも多々ありますが、必ずや光明を見出せるものと考えておりますので、教職員が一体となって、この危機をなんとしても乗り越えていく必要があります。そのためにも先般策定しました「享栄学園中期ビジョン」を着実に実行に移してまいります。

I. 教学計画

少子化が進行する中、募集環境はますます厳しくなり、現状のままでは収入の減少が予想される。幼稚園から大学まで有する総合学園として、平成 25 年度を迎える学園創立 100 周年を目標に学園のネットワークを最大限活用し、傘下校の間で緊密に連携し、総合学園として一層社会的に評価され、健全な経営基盤を支える魅力ある教育の改革を行っていく。

- ① 鈴鹿地区を中心とした高大連携の強化
 - ・ 鈴鹿地区経営戦略室の設置。具体策の立案・推進
 - ・ 鈴鹿国際大学教員による鈴鹿高等学校での出張授業の開催
- ② キャンパス統合（鈴鹿短期大学キャンパスを鈴鹿国際大学キャンパスへ移転）による両校の活性化と高等教育機関としての魅力作り
 - ・ 鈴鹿地区経営戦略室での立案・推進
 - ・ キャンパス統合等ハード面の調整
 - ・ カリキュラム、教職員人員等ソフト面の調整
 - ・ 魅力ある授業カリキュラムの検討
- ③ 選ばれる学校となるため、魅力あるカリキュラムの制定と学生・生徒一人ひとりを伸ばす教員の指導力の育成
 - ・ キャリア教育の充実

「論理コミュニケーション」科目の設定（鈴鹿高等学校：慶応義塾大学との共同プロジェクト）

「公務員養成」講座、「コンサルティング力養成」講座（鈴鹿国際大学）

- ・ 鈴鹿高等学校・享栄高等学校・栄徳高等学校合同の海外スタディツアー開催
 - ・ 学生・生徒を伸ばす教員の指導力の育成
- 階層別研修（新任研修から中堅・幹部候補研修）の実施
- ・ 選ばれる学校となるための広報戦略の構築

鈴鹿国際大学

享栄学園の建学の教育理念である誠実で信頼される実用人の育成、日本の伝統に基づく人間愛の尊重、産学協同による地域社会への貢献という精神を、国際化する現代社会の進展に合わせて継承発展させる。

重点目標

ア 国際社会の要請に応える

国際的な人的交流、情報交流、経済交流の進展に的確に対応するため国際的視野に立って判断し、行動する人間の養成をめざし、外国語教育を強化し、且つ情報処理能力を備えた実用的人間づくりを目標とする。

イ 国際化する地域社会の要望に応える

生涯学習社会の到来や高学歴志向による大学の大衆化を踏まえ、地域の高等教育機関の充実の責務を担い、地域への知的還元をする中で、国際化する地域社会の文化の向上及び経済発展に寄与貢献することをめざす。

ウ 多文化理解を深める

真の国際人養成のため平成11年度より海外研修制度を新設、第1年次より多文化理解を深めることにより、学習・研究意欲の向上に役立つものとして、この研修制度を積極的に進め効果を得たが、新たに平成18年度より3年生を対象としたSOP（海外短期留学支援制度）を4つのプログラムで実施し、現在平成23年度入学生に向けてプログラムの見直しを行った。これによりなお一層の多文化理解を深めると共に世界に通じる国際人の養成が図れる様、成果を期待している。

エ 研究・教育の充実を図る

教職員の現有パワーを十分に発揮し、ユニークな研究・教育活動を展開し、少子化に伴う危機的時代に積極的に対応する。

学生ひとりひとりのビジョンを大切に、きめ細かな指導を徹底する。

鈴鹿短期大学

教育目標

建学の精神「誠実で信頼できる人に」の具現化に向けて、教育理念「人間形成教育」「理性と情緒の調和」を教育活動の指針に置き、「気立ての良い、社会に求められる人材」を育成する。

重点目標

- ◇学科コンセプト「生活コミュニケーション」（共感・共食・共育）を全分野に展開し、特色ある教育機関を目指すことで、「通年次での募集定員の確保」「進路保障の充実」「教育・研究活動の充実」を図る。
- ◇自己点検・評価活動を確実に進め、教育・研究機関としての付加価値を高める。
（第三者評価適合認定・財務体質改善・新学科展開・専攻科運営・運営による地域ニーズ対応）

1. 通年次募集定員の確保

（1）重点校との関係強化

- ①学科名称変更（生活コミュニケーション学科）及び新学科コンセプトの浸透 PR
- ②重点校ニーズの教育システムへの反映

（2）高大連携活動の拡大

- ①鈴鹿高校との連携深化（高1・高2からの授業参加等）
- ②重点校との連携スキームづくり

（3）入学前支援の充実（ex.入学前指導プログラム）と入学後の満足度向上

2. 進路保障体制づくり

- ①在校生の進路保障体制の深化と組織的展開、卒業生へのフォロー対応強化
- ②編入学協定大学の拡充

3. 第三者評価適合性認定の獲得

自己点検・評価活動(改善活動)の推進と「適合性認証」の獲得→付加価値づくり

4. 他校にない本学の特色（魅力品質づくり）

- ①専攻科の設立（H23年度、養護教諭1種免許状・学士）・運営による学内全体の教育力向上
- ②音楽療法士2種、アニマルセラピスト等他校にない特色化（養護、栄養、幼稚園、保育）
- ④キャリア開発講座の充実（全学生が受講する科目「社会教養」他）
- ④生活コミュニケーション学研究所の展開（セミナー・シンポジウム開催、年報作成他）

5. 地域活動

- ①開学 45 周年記念行事（特別講演他）の実施
- ②公開講座等、地域貢献活動の充実
- ③教員免許状更新講習の開講（今年度より幼稚園教諭対象へ拡大実施）
- ④社会人入学、公開講座参加等コミュニティ・カレッジとしての特徴強化

享栄高等学校

校 訓

『誠実で信頼される人に』

具体的な目標（五綱領）

1. 当てになる人物になろう
2. 働くことの喜びを知ろう
3. 全力をふるってことにあたる体験をもとう
4. 常に前向きな向上心をもとう
5. 生命を大切にしよう

基本理念

「教師が変われば生徒が変わる。生徒が変われば学校が変わる。」を基にして、生徒一人ひとりを大切に、自己実現が図ることができる教育

目指す学校像

「面倒見の良い学校」

1. きめ細かく丁寧な教育をする学校
2. 夢と感動のある学校
3. 地域に評価される学校

重点目標

1. 生活指導関係
 - ① 規範意識の向上と基本的生活習慣を確立する。
 - ② 全教職員の共通理解の下、事前指導に徹する。
 - ③ 生徒を無視しない。また、生徒に無視されない教師と生徒の信頼関係を確立する。
2. 学習指導係
 - ① 3科の特性を生かした学習の推進と共に資格取得の徹底を図る。
 - ② 学習規律を図り、生徒に「分かる授業」を展開し、学習実績を上げる。
 - ③ 生徒が目指す進路実現を図る。
3. その他
 - ① 責任体制を明確にする。
 - ② 学校行事は全職員で取り組み、整然と行う。

③ 保護者・中学・地域から信頼される学校を目指す。

鈴鹿中学・高等学校

本校の教育目標は建学の精神である、「誠実で信頼される人に」という次代を担う人材の育成にあります。

具体的には本校の SI である「安心と信頼・元気と共感」を機軸に、鈴鹿を選んでいただいた生徒や保護者の方の「満足度」の視点に立った教育活動を進めていきます。

また鈴鹿の教職員である以上、以下の重点 3 項目を柱に、常に厳しさと温かさ、きめ細かな指導を通して、「チーム：SUZUKA」として全員がチームワークを第一に一致団結して取り組んでいきます。

1、教師全員が「生徒を伸ばす」教科指導の実践と評価

鈴鹿の教師は全員がプロの教師であるという自覚のもと、まずは教師が指導力の研究と研鑽の勉強に努め、生徒の持っている潜在的な力（＝学力）を伸ばすこと目標とします。

また、「一人一人を大切にする」という本校の従来からの教育理念の重視し、生徒の自己肯定感を育成し、自己実現(なりたい自分)にむかって進んでいけるよう学力をつけていきます。

そのために全教員が生徒を伸ばせる専門家としての教師力の育成を図り、鈴鹿の教師としてその目標を達成するために、個々のあるべき教師像を追求・点検していきます。

2、「集団としての規律とルール・時間」を守る自己コントロール力の育成

鈴鹿の教師は卒業後、社会の中で一人の人間として自立し、信頼されて生きていくことができる人を育てます。そのために、「だめなものだめだ」という徹底した指導をするとともに、授業・行事を通じ日常的に「あいさつをする」「学校をきれいにする」「授業規律」「校則と時間」を守るという基本の強化指導の徹底をはかります。

3、「いじめ」や「差別」のない仲間づくりと命の教育の充実

鈴鹿の教師はいじめや差別を見逃さない、絶対許さないという人権尊重の雰囲気を作っていきます。そのために、学年やクラス、クラブなどで仲間としてお互いに尊重できる集団作りと生徒一人ひとりが安心して居場所のある学校にしていきます。

また、交通事故や自殺の予防など、命を大切にする教育を進めていきます。

栄徳高等学校

教育目標

享栄学園の建学の精神である「誠実で信頼される人に」を校訓として、その校訓を達成するために、次の教育目標を定める。

常に明確な目標を持ち、真剣に事に当たる習慣をつけ、豊かな人間性、強い気力・体力、幅広い知性を身につける。

ア豊かな人間性

イ強い気力・体力

ウ幅広い知性

具体的目標（栄徳五訓）

一常に目的意識を持とう。

一感謝の気持ちをこめて挨拶しよう。

一学習、スポーツに頑張ろう。

一責任ある行動をとろう。

一栄徳生としてプライドを持とう。

重点目標

ア生徒一人一人を大切に育て、各自が夢と目標を持ち希望の進路の実現を図る。

（ア）これまでの進学実績を基盤に、進学校として一層の飛躍を図る。

（イ）きめ細かい生活指導を通じて、けじめのある躰教育をする。

（ウ）退学者をなくすよう努力する。

（エ）“命を大切に”をモットーに交通安全指導の徹底を図る。

イ時代の要請、中学生の要求に応える「新しい学校づくり」に積極的に取り組む。

ウ落ち着いた、活気のある学校を目指す。

教育目標達成のために、全教職員が一致してその教育の推進に当たるとともに、教職員の和を大切にする。

エ進路指導の充実を図る。

（ア）進学実績の向上を図るため、信頼度の高い進学指導体制を確立する。

（イ）現状をかんがみ就職指導に万全を期す。

（ウ）普通科特進コース特進クラス A と普通科普通コース文理選抜クラス Z の充実。国公立大学進学者の増加を図り、進学実績をさらに伸ばす。

オ教科指導の充実を図る

（ア）日々の授業を大切にする習慣を身につけさせる。

（イ）学習効果を高めるため、各教科で指導法を研究し、魅力ある授業展開をはかる。

（ウ）研究授業の充実を図る。

カ生徒募集を積極的に行う。

享栄幼稚園

建学の精神「誠実で信頼される人に」を基に、
教育目標に

「だれとでも仲よく遊べる子」

「元気で明るい子」

「最後までがんばる子」

「ありがとうの言える子」

「きまりを守って遊べる子」

「思いやりのある優しい子」

を掲げ、保育の場を通して具現化していく。

近年の動向として、少子化の影響、不景気の影響で私立幼稚園自体に厳しい環境へ置かれているが、一方で幼稚園就園人口は20年間横ばい(出典:内閣府経済白書)の状況、地域において家庭における子育て支援が求められていることから、ニーズを掴む努力が必要と考えている。

II. 管理・運営計画

1. 中期経営計画の着実な実施

危機的な経営状況から脱するために、平成22年度に中期経営計画を策定し、平成24年度消費収支差額均衡に向け改革を実施してきている。教育環境の維持・充実のためには適切な投資も必要であるが、収支の状況を見ながら最小限とする。法人全体の財務を改善するために、傘下各校が責任を持って収支バランスを図ることを前提として、中期経営計画を基にして財務改善を成し遂げていく。

- ① 中期経営計画の着実な履行
- ② 人件費の適正化を図るための給与制度改定の実施
- ③ 財政指標に基づく予算作成と予算執行管理制度の確立

2. ガバナンス体制の構築

「誠実で信頼される」学園へと更なる発展をしていくためにも現状のガバナンス体制を検証し、問題点について再構築して行く必要があると考えている。

- ① 学校法人としてのガバナンスに基づいた理事会・評議員会・常任理事会等の明確な位置づけ
- ② 理事・評議員の責任の明確化と選出方法の見直し、それに伴う寄附行為をはじめとする諸規程の改定
- ③ 内部監査室の設置、監査の実施し、監事による監査、公認会計士による監査のいわゆる三様監査をこれまで以上に機能させて内部統制を強化

3. 多様な人材を活用できる人事体制の構築

財務改善策実行により教職員に痛みが伴う中、仕事の成果および貢献度に応じたインセンティブ制度の導入等多様な制度の検討を行っていく。

- ① 教職員について、年功による一律的な処遇ではなく、努力と成果・貢献度に応じたインセンティブ制度の導入
 - ・ 教職員の能力向上のため、各種研修参加などの人材育成に関する取組の推進
 - ・ 学外研修会への計画的な派遣（研修制度の制定）
- ② 学園内研修会の定期的開催（外部講師・内部講師）
- ③ 外部からの人材活用
 - ・ 専門的なスキルを持った人材の招聘

4. 教職協働体制の推進

現在、厳しい財政状況の立て直しが急務との観点から改革に取り組んでいるが、経営と教学が一丸となってこそ初めて健全な学園経営が行われると考えている。このためには教職協働体制を確立し、健全な経営が成り立つ組織とシステム作りを目指していく。

- ① 所属長の経営責任明確化と協働できる職場代表者等の経営への参画
- ② 高大連携、キャンパス統合などの教職協働プロジェクトの推進
- ③ 学校法人として最も大切なステークホルダーへの説明責任・情報公開の推進
- ④ I Tを使って理事会・理事長をはじめとする経営陣と一般教職員のコミュニケーションの強化と情報の共有による学園の帰属意識の強化

以上